

## 第97号正誤表

雑誌名	集刊東洋学
巻	97
発行年	2007-10-31
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10097/00132636">http://hdl.handle.net/10097/00132636</a>

帝の死去や東宮官の存在が宦官組織に与えた影響、の二点に注意を払うこととする。また、今後の宦官研究では他の王朝の宦官との比較が必要になると考えられるが、その作業の基礎として、どのような経歴・勤務年数を経た宦官によって明代の宦官組織が構成されていたか、その一般的な状況の提示を試みたい。

### 明代の「巡按遼東」をめぐる

弘前大学 荷見 守 義

中国歴代王朝において、国防の占めるウェイトは極めて重い。それは単に政治史の枠内に止まるのではなく、広く社会経済を含めたこの国の形を定める。本報告で取り上げる明朝もその例外ではない。元末明初の国家形成期を通して、明朝は衛所制を基礎とし塞防と海防を軸とする辺防体制を築き上げた。このうち、北辺の塞防は東は遼東から西は甘肅まで張り巡らされた。その遼東は山海関外の鴨緑江に及ぶ地域であり、東は朝鮮王朝（また前身の高麗王朝）、東北はジェシェン（女直・女真）、西はモンゴルの地に接し、南は渤海湾に臨む、まさに辺防の要地であった。

この遼東の辺政を通観すると、監察の官たる巡按の地位の重みに気がつく。そもそも明代辺政の研究自体、殆ど未着手の状態にある現段階において、巡按の辺政システム上での位置づけを安易に行うことは慎まなければならない。この点、慎重に議論することとしても、巡按が単に監察に止まらない影響力を持っていたことには留意しなければならない。遼東の巡按は『明実録』では「巡按遼東」「巡按山東」と二通りの書き方をされるが、檔案に基づき「巡按山東」が正しい。また、遼東の守巡道官を見

ると山東布・按の肩書きを保持する場合が多いことに気づく。これは地方官制上、遼東が山東に組み込まれているからであり、特段不思議なことではない。ただ、留意しなければならないことは、遼東は行政系統上、山東本省とは別系統であり、人脈的繋がりがあったとしても、本省の影響を受けることは少なかったであろうという点である。

さて、遼東の巡按は辺政万般に関与し、檔案を概観するだけでも科挙・互市・朝貢・軍務の諸方面と守備範囲は大変広かった。本報告ではこの遼東巡按の実態解明作業の一端を取り上げることとしたい。

97 号正誤表

97	89	57	57	57	34	25	25	22	頁
中	下	下	下	上	上	上	上	下	段
11	17	17	4	17	16	15	5		行
平成十八年	基礎漢文演習	二十二もしくは二十三回	第二十四回	第二十七回	謂之万物。不出戸篇	有形蓄鬻	關係を有		誤
平成十九年	漢文基礎演習	二十六もしくは二十七回	第二十八回	第二十八回	謂之万物。不出戸	有形蓄鬻	關係を有		正